

# 単元2

## 具体的な支援内容の 検討と地域での取組



## ■ 目標

---

- 地域調整会議での検討内容と、支援等実施者として留意することについて理解する
- 支援等実施者の具体的な支援内容と人材確保についてイメージする

## ■ 内容

---

1. 地域調整会議による具体的な支援内容の検討
2. 【意見交換】具体的な支援内容と人材確保
3. まとめ



# 01

## 地域調整会議による 具体的な支援内容の検討

**具体的な支援等の方法  
(個別避難計画の記載内容)は  
どうやって決めるのでしょうか？**

# 個別避難計画の記入イメージ

## 個別避難計画（わたしの避難計画書）（例） 作成日：令和 4年 10月 25日

＜計画作成及び個人情報使用の同意について＞  
 □災害時に円滑な避難ができるよう個別避難計画を作成し、関係機関・者で共有することに同意します。  
 □計画作成により必ず支援が受けられることを保証するものではなく、関係機関・者が法的な責任や義務を負うものではないことについて理解し、同意します。

■本人情報

ふりがな	ひろしま いちろう	血液型	A型	性別	<input checked="" type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
氏名	広島 一郎	生年月日	大(国) 平(令) 14年 10月 1日	年齢	83歳
住所	〒 〇〇〇-〇〇〇〇 広島県〇〇市〇〇1-16				
連絡先	自宅 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 FAX 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	携帯	〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇		
心身の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 要介護・要支援認定（要介護度1） <input type="checkbox"/> 障害者手帳（ ） 備考				
家族構成	<input checked="" type="checkbox"/> 同居家族なし（一人暮らし） <input type="checkbox"/> 同居家族あり（ ）人暮らし ※本人含む 備考				
緊急連絡先（家族等）	氏名 広島 拓郎 続柄 息子 連絡先 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	備考	東京都在住		
自治会等	名称 〇〇〇町内会 連絡先 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	備考	氏名 紅葉 五郎		
医療機関	名称 〇〇内科 連絡先 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	備考			
福祉施設サービス利用	名称 デイサービス〇〇 連絡先 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	備考	通所利用		

■わたしの避難行動

避難の必要性	大雨時・台風時		地震・津波時	
	土砂災害 あり・なし	洪水 あり・なし	高潮 あり・なし	津波 あり・なし
避難の必要性	あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
避難のタイミング	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者等避難 <input type="checkbox"/> 避難呼びかけ	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者等避難 <input type="checkbox"/> 避難呼びかけ	<input type="checkbox"/> 高齢者等避難 <input type="checkbox"/> 避難呼びかけ	<input type="checkbox"/> 避難指示 <input type="checkbox"/> 津波警報
避難先	ひろしま小学校	ひろしま小学校		ひろしま小学校
距離	0.4 km	0.4 km	km	0.4 km
移動手段	歩行	歩行		歩行
移動時間	8分	8分	分	8分
準備	携行品		その他準備事項	
	杖 補聴器 補聴器の電池 薬、お薬手帳		窓を閉める .	
準備にかかる時間				10分

■避難時に必要な支援

避難支援等 実施者 ※必ず記入	① 氏名 島 康夫 住所 〇〇1-1-4 連絡先 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	関係 〇〇町内会 役割 自宅まで避難の声かけをしに行き、支えながら一緒に避難する。
	② 氏名 鉄板 令子 住所 〇〇1-1-1 連絡先 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	関係 〇〇町内会 役割 支えながら一緒に避難する。
	③ 氏名 安芸 正 住所 〇〇1-1-15 連絡先 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	関係 隣人 役割 避難支援はできないが、声をかけながら一緒に避難する。

■支援内容

- 補聴器がないと耳が聞こえにくいため、自宅まで避難の声かけをしに行く。寝室は居間の奥の部屋。
- 人の支えがないと歩けないため、2人の支援者が支えながら歩く。
- 支援されることに遠慮がちなため、隣人で日頃から仲の良い安芸さんも一緒に避難する。（安芸さんは高齢のため避難支援はできないことに注意する。）

■自宅から避難先までの経路、その他支援に必要な事項を記載してください。



■避難生活時に必要な支援

■支援内容

- 補聴器の充電が切れると使えなくなるため、電池がなくなった時に注意する。
- 服用している薬の詳細は、お薬手帳に記載している。
- 避難生活が長期にわたる場合には、身体機能維持のための運動を行うようにする。現状よりも歩行困難になることを防ぐ必要がある。

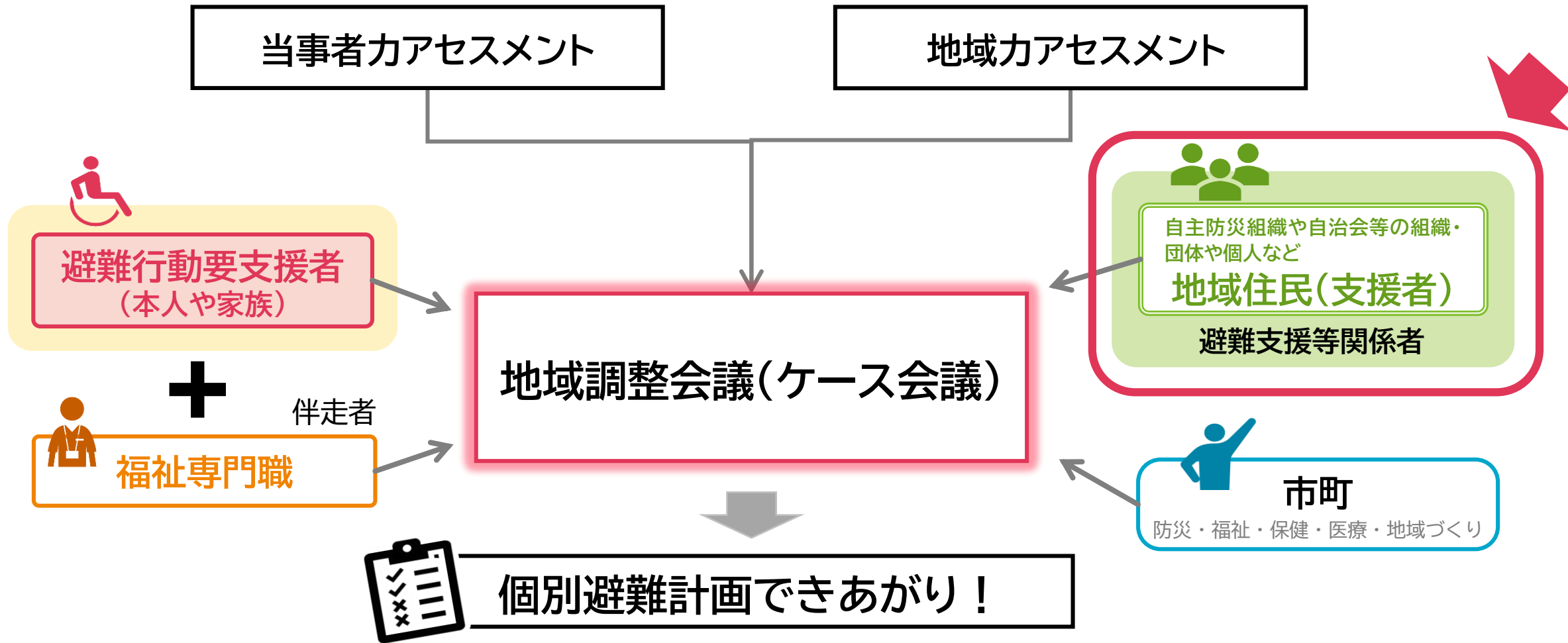
◎計画作成関係者

福祉専門職 氏名	福祉 結	民生委員 氏名	山陽 映子	自治会等 氏名	紅葉 五郎
-------------	------	------------	-------	------------	-------



具体的な支援等の方法は個別避難計画に記載される

# 避難支援に関する方針を決める地域調整会議(再掲)



地域調整会議の内容は「单元2」で学びます

**地域調整会議は、実際、  
どのように行うのでしょうか？**

# 地域調整会議のメンバーと役割【市町が主導して進める場合】



## 市町職員

- 会議の招集、調整
- 会議の進行、調整



- 災害時に誰が支援するか、どう支援するか等を一緒に検討

## 地域住民 避難支援等実施者

必要に応じて避難支援等関係者も参加



## 避難行動要支援者 (家族含む)

- 自分の状態や支援してほしいこと等を説明



## 福祉専門職

- 要支援者がうまく参画できるよう支援
- 避難支援の際の留意点等を説明

避難支援する際の  
ポイント・留意点を説明

要支援者本人と身近な関係者が一緒に、災害時の避難行動を話し合う



# 地域調整会議の様子



避難行動要支援者 本人の心身の状態をはじめ、  
避難支援等を行う際のポイントや留意点 についてよく理解して話し合う！

写真左: 那覇市「地域における避難行動要支援者の避難体制づくり～地域で行う避難支援～」 令和3年3月

写真右: 内閣府(防災担当)「令和3年版 防災白書」最終アクセス令和5年2月15日 <https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/r03/photo/ph026.html>

Copyright © Hiroshima Prefecture. All rights reserved.

# 地域調整会議におけるゴールと協議内容

## ◆ 地域調整会議のゴール

地域調整会議  
(ケース会議)



### 個別避難計画の作成

- 本人、支援者の皆が内容に合意する
- 今後取り組むべき課題を明確にする

### 関係者間で協議・調整すること

- 本人が取り組むべき避難行動の内容
- 避難支援等実施者(代替りの実施者を含む)
- 避難先と避難経路
- 避難の開始時期(タイミング)と「避難の呼びかけ」伝達のルート
- 避難支援の具体的な内容と方法
- 避難支援における安全確保措置
- 個別避難計画の作成・活用に係る留意事項など

「避難行動要支援者の心身の状態」と「望んでいる支援事項」をふまえ、  
実際に避難できる計画を作ることが重要！

# 【事例】 地域調整会議の取組

## 三原市 福祉専門職と地域住民の連携

- 要介護の要支援者の個別避難計画を作成するため、**福祉専門職（ケアマネジャー）と連携**
- **ケアマネジャーと防災会が一緒に**避難行動要支援者のお宅を訪問し、個別避難計画と計画作成のための会議について説明
- 一人の要支援者の避難について検討する「**避難支援ネットワーク会議**」を開催し、計画を作成



避難支援ネットワーク会議(地域調整会議)の様子

# 支援等実施者の責任

みなさん自身や家族の安全を守ることが大前提

## ◆ 支援者の不安

支援しようと思っていたけれど…

**支援できなかった！**

助けることができなかった場合でも、支援者が責任を負うものではない



支援したけれど…

**ケガをさせてしまった！**

悪意または重大な過失がない限り、原則として責任を問われない



避難を支援したことで自分が死亡・負傷などした場合、市町が行う損害補償の対象になります



避難支援等は、あくまで 地域における助け合い・共助の活動 である

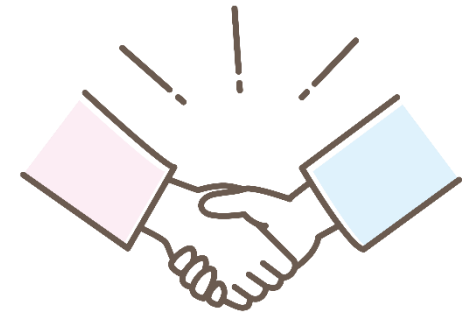
# 個別避難計画の留意事項

## ◆秘密保持義務

個別避難計画は、避難行動要支援者に関する心身の機能の障害や疾病に関する情報等、**きわめて秘匿性の高い秘密を含む**

➔ 個別避難計画情報の提供を受けた者、情報を利用して避難支援等の実施に携わる者に**守秘義務**がある

避難等を支援するには  
信用が十分に得られることが大切！



名簿情報は正当な理由なく他者に漏らさないよう注意する

## まとめ

- 支援等の方法は「地域調整会議」で整理・検討される
- 要支援者本人の心身の状態、支援を行う際のポイントや留意点についてよく理解して話し合う
- 避難支援等は、みなさん自身や家族の安全を守ることが大前提
- 個別避難計画情報は秘密保持義務がある

# 02

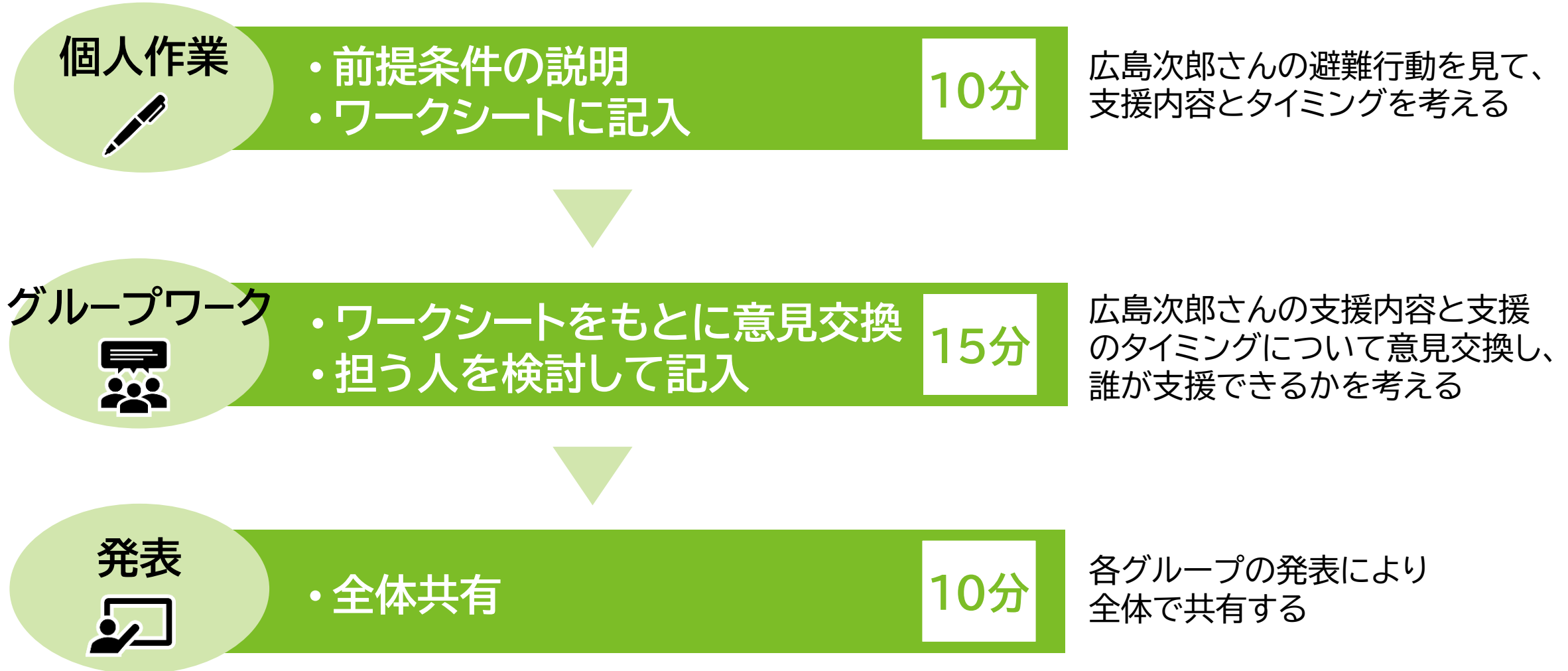
## 【意見交換】 具体的な支援内容と 人材確保

**個別避難計画を作成するには、  
地域みんなで取り組む必要があります**

**地域の中で  
「誰が」「どんな支援を担えるのか」  
考えてみましょう**



# 説明:「意見交換」検討とその流れ



## 1. 自己紹介をしましょう

- 名前
- 自主防災組織名、自治会名等

## 2. 役割分担を決めましょう

- 進行
- 記録
- タイムキーパー
- 発表

# 1. 個人 前提条件の説明

## 広島 次郎さん（85歳 男性）

- 杖を使った自力歩行は300mまで可能
- 車いすを持っている
- 普段は補聴器を使用
- 土砂災害の危険が高い場所に、平屋の一戸建てでひとり暮らし
- 近くの避難先は、ひろしま小学校（自宅からひろしま小学校までの距離は500m）
- 日頃からの地域とのコミュニケーションは良好



## 支援者の候補となるみなさん

- 支援したい気持ちを持っている
- 自分たちも高齢であり、全てを支援するのは負担が大きい

• Aさん 車いすを操作できる。無口



• Bさん おしゃべりが好き。介助は難しい



• Cさん 家が隣。体力は自信がない



## 2. 個人 「支援内容」と「タイミング」の検討

10分

個人で検討して、「検討ワークシート」に書き出してください。

地域の人が「いつ」「どんな」支援をするとよいでしょうか？

- 「どのタイミングで」、「具体的に何を」するのかを考えてください
- 「だれが支援するか」、「できるか」ととらわれず、考え得ることを洗い出しましょう

「広島次郎さんの行動」や「支援内容ヒント」を参考に考えましょう！



個人ワーク用

場面	広島次郎さんの行動	具体的な支援内容	担う人(候補)
平常時	<ul style="list-style-type: none"><li>• 個別避難計画完成！</li><li>• 避難のタイミングを確認</li><li>• 避難経路の確認</li><li>• 非常持ち出し袋の準備</li><li>• 備蓄の用意</li><li>• 家具の固定</li><li>• 訓練への参加</li><li>•</li><li>•</li><li>•</li></ul>		
避難の準備	<ul style="list-style-type: none"><li>• テレビで避難情報を確認する</li><li>• 支援者に電話する</li><li>• 非常持ち出し袋を出す</li><li>• 避難する服装に着替える</li><li>• 戸締りをする</li><li>• 玄関まで出る</li><li>• 靴を履く</li><li>•</li><li>•</li><li>•</li></ul>		
避難場所への移動	<ul style="list-style-type: none"><li>• 支援者と合流する</li><li>• 避難経路を確認する</li><li>• 車いすに乗る</li><li>• 車いすを押してもらう</li><li>•</li><li>•</li><li>•</li></ul>		
避難場所に到着後	<ul style="list-style-type: none"><li>• 受付をする</li><li>• 安否を報告する</li><li>• 居住スペースやトイレなどの位置を確認する</li><li>• 生活で支援が必要なことを伝える</li><li>•</li><li>•</li><li>•</li></ul>		

ワークシート(個人ワーク用)

20

## 2. 個人 「支援内容」と「タイミング」の検討

### 「検討ワークシート」の書き方

場面	広島次郎さんの行動	具体的な支援内容	担う人(候補)
平常時	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別避難計画完成！</li> <li>避難のタイミングを確認</li> <li>避難経路の確認</li> <li>非常持ち出し袋の準備</li> <li>備蓄の用意</li> <li>家具の固定</li> <li>訓練への参加</li> <li></li> <li></li> </ul>	<p>計画を一緒に確認する</p>	
避難の準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビで避難情報を確認する</li> <li>支援者に電話する</li> <li>非常持ち出し袋を出す</li> <li>避難する服装に着替える</li> <li>戸締りをする</li> <li>玄関まで出る</li> </ul>	<p>声かけ「そろそろ準備しよう」</p>	

簡単なコト  
ささいなコトでも  
支援につながります！

### 3. グループ グループで意見交換

15分

グループごとに意見交換をして、「誰が」支援するか検討してください

それぞれの支援を「誰に」担ってもらおうとよいのでしょうか？

- それぞれの支援を「地域の誰」が担うのかを考えてください
- Aさん、Bさん、Cさんの誰がよいのでしょうか？
- この3人以外にも支援者の候補としてどんな人がいるといいのでしょうか？

• Aさん 車いすを操作できる。無口



• Bさん おしゃべりが好き。介助は難しい



• Cさん 家が隣。体力は自信がない



場面	広島次郎さんの行動	具体的な支援内容	担う人(候補)
平常時	<ul style="list-style-type: none"><li>• 個別避難計画作成！</li><li>• 避難のタイミングを確認</li><li>• 避難経路の確認</li><li>• 非常持ち出し袋の準備</li><li>• 備前の用意</li><li>• 家具の固定</li><li>• 訓練への参加</li><li>•</li><li>•</li><li>•</li></ul>		
避難の準備	<ul style="list-style-type: none"><li>• テレビで避難情報を確認する</li><li>• 支援者に電話する</li><li>• 非常持ち出し袋を出す</li><li>• 避難する服装に着替える</li><li>• 戸締りをする</li><li>• 玄関まで出る</li><li>• 靴を履く</li><li>•</li><li>•</li><li>•</li></ul>		
避難場所への移動	<ul style="list-style-type: none"><li>• 支援者と合流する</li><li>• 避難経路を確認する</li><li>• 車いすに乗る</li><li>• 車いすを押してもらう</li><li>•</li><li>•</li><li>•</li><li>•</li></ul>		
避難場所に到着後	<ul style="list-style-type: none"><li>• 受付をする</li><li>• 安否を報告する</li><li>• 居住スペースやトイレなどの位置を確認する</li><li>• 生活で支援が必要なことを伝える</li><li>•</li><li>•</li><li>•</li><li>•</li></ul>		



ワークシート  
(記録者はグループワークシートを使用してください)22

## 2. グループ グループで意見交換

### 「検討ワークシート」の書き方

場面	広島次郎さんの行動	具体的な	候補人(候補)
平常時	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別避難計画完成!</li> <li>避難のタイミングを確認</li> <li>避難経路の確認</li> <li>非常持ち出し袋の準備</li> <li>備蓄の用意</li> <li>家具の固定</li> <li>訓練への参加</li> <li>マイタイムラインをつくる</li> </ul>	<p>計画を一緒に確認する</p> <p>避難に係る準備の相談にのる</p>	<p>みんな</p> <p>Bさん</p> <p>車いすが入る車を持っている人</p>
避難の準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難情報を確認する</li> <li>話しする</li> <li>非常持ち出し袋を出す</li> <li>服装に着替える</li> <li>準備をする</li> <li>玄関まで出る</li> </ul>	<p>声かけ「そろそろ準備しよう」</p>	<p>Cさん</p>

意見交換で新たに気づいた支援内容も書き足しましょう

3人以上にも候補となる人を書き込んでください

次郎さんの行動で気付いたことも書き足しましょう

# 各グループで意見交換した内容について 全体で共有します

## グループごとに発表してください

### 【発表すること】

- 「どのタイミングで」「何を」支援するか  
「誰が」担うか
- 意見交換で書き足した「次郎さんの行動」、  
「支援内容」、「担う人の候補」など





# 【取組のポイント】日頃の見守りを支援に活かす

平常時にできる支援はたくさんある  
要支援者の自助力を上げるには平常時の支援が有効！



- ✓ あいさつ、声かけ
- ✓ 広報紙を配布する際の安否確認
- ✓ 地域の掃除や草取り、送迎等の助け合い活動
- ✓ 居場所づくり(おしゃべりやレクリエーション活動、会食等の機会をつくる)
- ✓ 個別避難計画の内容を一緒に確認する、訓練と一緒に参加する など

「顔見知りの関係」を作ることで…

- 要支援者は、備えの相談ができるようになる
- 地域のみなさんは支援等実施者に手をあげやすくなる
- 変化をキャッチしやすくなるため、計画見直しのタイミングに気づける

日頃の見守りが避難支援に必要な **信頼関係をつくる！**

# 【取組のポイント】支援者の負担を軽減する

一人ひとりの支援者が、「できる範囲で」要支援者を支援する体制を作ることによって、担う負担を軽減する

## ◆支援者の不安を軽減する

- ✓ 避難支援等は地域でできる限りの助け合い・共助の活動である
- ✓ 支援者自身や家族等の安全確保が最優先である
- ✓ 支援できない場合や事故等が発生しても責任を負うものではない

## ◆支援者の負担感を軽減する

- ✓ 避難支援する際の手順や役割、ポイントを明確にする
- ✓ 人手が足りないなど、支援者が困った時の連絡先を明確にする
- ✓ 地区全体でルール(地区防災計画など)を作る

本人や家族が出来ることを自分たちで準備すると、支援者の負担は軽減される

## 【取組のポイント】複数の支援者が連携して支援する

要支援者を支援できる候補者を幅広く確保するとともに、支援者間のつながりを形成しておく

- ✓ 避難支援等実施者は、特定の人だけを支援者とするのではなく、より多くの人を支援の候補者とするのが基本
- ✓ 人と人とのつながりを頼りとし、多様な団体、組織に声をかける  
(企業や学校等との連携も有効。団体や組織で担う場合は計画が必須)
- ✓ 地域にどんな職能や特技を持った人がいるのか把握して連携する
- ✓ 津波の場合は津波リスクのない地域から「支援に向かう」のではなく、同じ津波リスクのある地域の人が「一緒に逃げる」を基本とする



代わりの実施者・補助者の設定や避難支援組織等、  
みんなでカバーし合いながら支援できる体制にする

# 【事例】地域の取組

## 東広島市黒瀬町・洋国団地

平成30年7月の西日本豪雨で  
一人の犠牲者も出さなかった

日頃から、こんなことに取り組んでました

- 団地全戸に防災ラジオを配布
- 避難援助の担当制を導入
- 避難訓練の実施



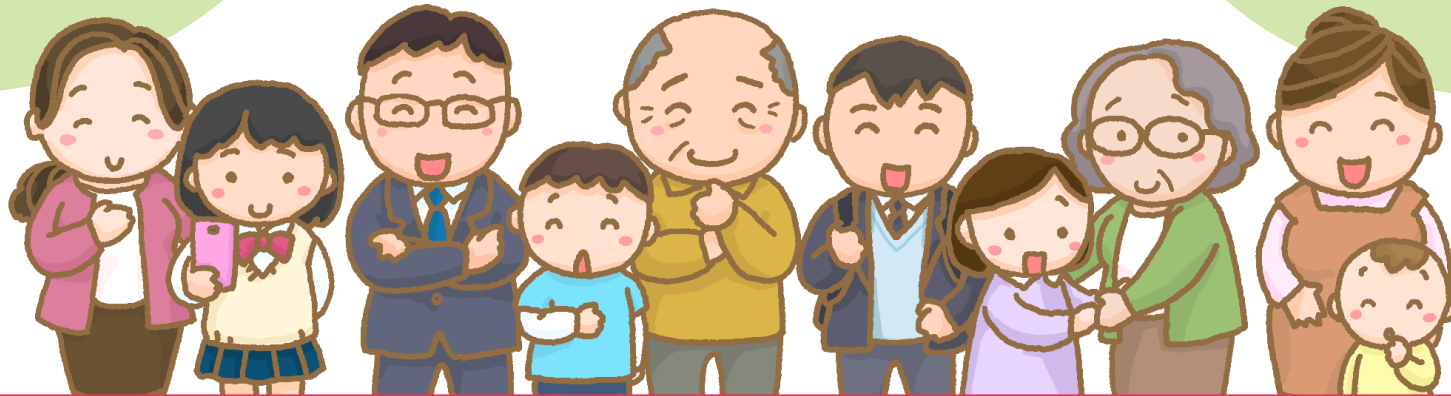
▲災害直後の洋国団地。大量の土砂が流れこんだ

# 地域のみんなで支援する

一人ひとりの  
負担を減らす

防災の視点を入れた  
日頃の見守り

複数で支援し、  
支援者同士が  
つながる



誰でも支援者になれるように工夫して、みんなが関われるようにする



03

まとめ

**要支援者のいのちを守る  
個別避難計画にするために、  
地域のみなさんの力を貸してください！**

## 個別避難計画の作成、避難支援等の実施に大切なこと

- 市町が中心となり、地域が協力して、本人・福祉専門職と一緒に個別避難計画を作成すること
- 避難支援について話し合う際は、要支援者の心身の状態、支援を行う際のポイントや留意点についてよく理解すること
- 訓練の実施、更新、計画等により実効性を確保すること
- みなさん自身や家族の安全を守ることが大前提であること
- 要支援者と信頼関係を築き、みんなでカバーし合いながら支援できる体制にすること

一人ひとりの「いのちを守る！」には、みなさんの関わりと協力が不可欠！